

<教職員や保護者、地域の皆様へ>

元小学校校長 村岡智彦

1 本日の講演テーマ

◎ 親の背に見る人生の道しるべ

～今、私たちは何か大切なことを忘れかけていませんか～

2 テーマについて

私たちは、豊かで便利な生活を手に入れたが、人と直接関わらなくても生きていけるような社会になってしまった。その結果、様々な社会問題を引き起こしている。子どもたちの世界も例外ではなく、いじめによる自殺、心が凍り付くような殺人、虐待などが続発している。**私たちは、人として何か大切なことを忘れかけているのではないだろうか。**

人間は、ヒト科の動物として生まれ、そして、周りの「ひと」や「もの」「こと」と関わり合いながら自立した一人前の人間へと成長していくのである。私たちは、その関わりの中で、生きていくために必要な資質（人間力）を身につけなければならない。そこで、子どもたちには、できるだけ本物に触れる体験と人と直に触れ合う場を提供する必要がある。

3 講師の願い（子どもたちや大人に伝えたい事）

(1) 三つの学び場の連携が崩壊

先人の言葉 ⇒ 教育の道は、

家庭の教えで芽が出て、学校の教えで花が咲き、世間の教えで実がなる

三つの連携強化 ⇒ 「人間力」育成

(2) 家庭や地域の教育力の低下

① 世の中の急速な変化（情報化、核家族化、少子高齢化等）

② 便利さや速さを求める世の中。手間暇かけない生活（外部への注文）に

③ 若者の都会への流出。地域行事の衰退。

(3) 表の道徳と裏の道徳

① 戦後の暮らしと地域親（裏の道徳で厳しく指導を受けた）

② 極貧生活の中で奏でる子育てハーモニー

・ただひたすら働く父親 ・地域親に頭を下げ続ける母の背中（早朝、夜）

③ 子どもへの目配り、気配りのできる担任（弁当・部活なし・下校指導後）

・担任として何ができるか、考え、行動に移すことが大切

(4) 子ども達に人間力を育む環境を（日本の良き伝統に今一度目を向けよう）

① 生きるとは⇒だれかと何かをして、働くこと（一人では生きていけない）

② 命と向き合わせる場の提供（手伝い＝特に料理、生き物の世話、墓参り）

③ 人との関わり、自然の恵みを感じる体験活動を取り入れる。

（・共助の心 ・感謝の心 ・挑戦の心 ・参加の心）